

# 福島第一原子力発電所事故に係る情報の収集・保存と利用；福島原子力事故関連情報アーカイブの現状

Collecting, Storage, and Usage of Information Resources about Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident; Current Status of the “Fukushima Nuclear Accident Archive”

\*早川 美彩<sup>1</sup>, 国井 克彦<sup>1</sup>, 峯尾 幸信<sup>1</sup>, 米澤 稔<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 日本原子力研究開発機構

原子力機構では、福島第一原子力発電所事故対応の研究開発支援を目的として、「福島原子力事故関連情報アーカイブ(FNAA)」を公開している。FNAA のアクセスログから利用者の検索・アクセス動向を分析した結果を報告する。

**キーワード**：福島第一原子力発電所事故，データベース，アーカイブ

## 1. 緒言

原子力機構では、福島第一原子力発電所事故対応の研究開発支援を目的として、散逸・消失等が懸念される国・研究機関等のウェブサイトで公開された事故に関連する情報及び学会等における発表情報についてメタデータを作成し、2014 年より「福島原子力事故関連情報アーカイブ(FNAA)」として公開している。データ収集方針及び検索機能等の検討に資するため、利用者の検索・アクセスの動向を分析したので報告する。

## 2. 分析方法

2014 年 6 月から 2017 年 12 月までの FNAA のアクセスログを分析対象とする。オープンソースのアクセス解析ソフトである AWStats を使用し、対象期間内でアクセスされたページ(詳細表示ページ)について、各年度でアクセス回数上位 100 件のページを抽出、利用者のアクセス動向の分析に使用した。また、FNAA 上で検索が行われた際の検索語を抽出し、各年度で利用者の検索動向の分析を行った。

## 3. 結論

アクセスされたページの一次情報源の機関別の集計から、経済産業省のインターネット情報へのアクセスが減少する一方で、原子力安全・保安院及び原子力規制委員会へのアクセスが増加していることが確認された。一方、学会等における発表情報へのアクセスは年度ごとの変動が大きいものの、平均で 34% を占めており、収録件数と比較してアクセスされる割合が高いことが示された。また、各年度のアクセス件数上位から、福島第一原子力発電所の現状や汚染水対策に関する情報へのアクセスが多いことが示された。

次に、FNAA の横断検索機能で使用された検索語の集計結果から、各年度で共通して「セシウム」「除染」に関する情報ニーズが高いことが示された。また、「セシウム」と同時に検索に使用された語(共起語)を集計した結果、「移行」「挙動」「山地」「森林」が共起語として頻出することが示された。

以上の分析結果から、学会等における発表情報へのニーズが高いこと、福島第一原子力発電所の現状のほか、放射性セシウムの移行挙動等に関する情報のニーズが高いことが窺える。この分析結果を踏まえ、学会等における発表情報及び環境動態・影響等に関する情報の拡充を検討する。

---

\*Misa Hayakawa<sup>1</sup>, Katsuhiko Kunii<sup>1</sup>, Yukinobu Mineo<sup>1</sup> and Minoru Yonezawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Japan Atomic Energy Agency